



平成22年11月15日

## 卓話 『内と外から見た明治神宮』

明治神宮国際神道文化研究所 主任研究員

今泉 宜子 様

明治神宮の今泉宜子と申します。明治神宮は明治天皇とお妃の昭憲皇太后さまをお祀りしております。創建は大正9年、1920年です。明治神宮とはどこのことを指すのかという話ですが、神宮の森の部分が内苑、神宮球場等があるのが外苑です。戦前憲法記念館と呼ばれた明治記念館は、元は赤坂御所、今の迎賓館の中にあり、明治憲法ができる前の御前会議が行われた建物。また参道も作られました。これら全体が神宮造営事業です。

明治神宮ができる前の原宿駅前の写真を見ると、本当に全く木がないところにあの森を作ったということが分かります。神宮を作るとき第一に考えたのが永遠に繁茂する森を作ること、そのためにはその土地に根差した木を植えるのが良いという結論に達します。それが榎や樅や椎の常緑広葉樹でした。この森、大体11万本の植林をしていますが、成功の要因の一つは最新の学知を導入したエキスパートの活躍、もう一つは献木と造営奉仕という全国規模の運動だと思います。本多静六は日本初めの林学者で、彼ら林学者は神宮の森を作るにあたって100年、150年後を想定します。将来、自分でドングリを落として世代交代していく森にするため、その過渡期として杉や檜を植えて榎や樅が大きくなるまで守り、段々それが世代交代して行くという発想です。今、ほぼ植林することも伐採することもなく、本来の森の力で神宮の森は回っています。

青年たちが明治神宮の森を作ったとよく言われます。これをリーダーとしてプロデュースした方が田澤義舗さんです。次郎物語という下村湖人の本に出て来る田沼先生という塾

の先生はこの方がモデルで、彼が中心になって全国の青年団を神宮の森の造林運動に関わらせました。この造営に関わった延べ11万人の青年の名前が今でも明治神宮に保管されています。



明治神宮の造営に関わった方はどんな方々だったのか。渋沢栄一さんが作った奉賛会は陛下が亡くなったその日から活動を始め、外苑についての献金運動を展開しました。そのほか渋沢栄一さんと共に造営運動を展開した東京市長の坂谷芳朗さん、御社殿を設計した建築家の伊東忠太さん。折下吉延さんは日本の都市計画創世記の方で、外苑の銀杏並木、裏参道等の並木道を設計しました。

神宮の神主たちは朝拝の際、祓言葉とともに明治天皇さまの御製と昭憲さまの御歌を毎日唱えています。次に今上陛下と皇后陛下から明治神宮に頂戴した御製と御歌をご紹介します。

「新たなる 知識世界に求めつつ

国を築きし御代をしのびぬ」

「知識を世界に求め」というところが五箇条の御誓文で、これが今の御製にも生きております。そして皇后さまの

「窓という窓を開きて四方の花

みさけたまえし大御代の春」

四方の花とは世界ということで、古い心、新しい心、短い明治神宮の歴史の中にもこんな形で息づいています。ありがとうございました。